2003 年度 委員会活動成果報告

（　2004 年　5 月　1 日作成）

委員会名	各部構法計画小委員会	主 査 名：小西敏正
所属本委員会 （所属運営委員会）	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2000 年　4 月　～　2004 年　3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	・各部構法の実態を把握し、問題点を整理するために、先進的、一般的な工法を用いた建築物の見学会を実施する。 ・各部構法計画に関わる教育内容の実態を把握し、今後の構法教育のあり方、望ましい教材の内容について検討する。 ・各部構法、特に外壁構法に関する情報交換を促進するためのシンポジウムを開催する。 ・資源循環型住宅に必要な各部構法計画の内容を検討する。 ・建築部品・構法の変遷に関わる資料及び人的ネットワークを構築する。	
委員構成 （委員名（所属））	小西敏正（宇都宮大学）、名取発（東京理科大学）、阿部光伸（㈱梓設計） 大島隆一（小山工業高等専門学校）、奥田宗幸（東京理科大学） 清家剛（東京大学）、角田誠（東京都立大学）、真鍋恒博（東京理科大学） 野城智也（東京大学）、山名善之（東京理科大学）、吉田倬郎（工学院大学） 中島裕輔（工学院大学）、是永美樹（東京工業大学）、甲藤正郎（東京大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	外壁構法研究ＷＧ：単独の主体では解決し得ない問題を学際的に発掘するため、ヒアリング等による各種調査を行うと共に、シンポジウムを開催して広く情報交換する事を目的とする。 建築部品・構法の変遷ＷＧ：現存する貴重な建築部品などの所在調査を基に、データベースの作成を行い、適切な公開方法を検討する。また、建築部品・構法の変遷調査に基づく「ストック部品」の推定方法の検討を行う。 構法教育検討ＷＧ：構法教育の内容の検討を通じ、構法教材・教育内容の基礎的資料作成を目標とし、具体的には標準的なシラバスや教材の内容の提案を行う。 工業化構法住宅のリユース技術研究ＷＧ：施工容易性に富む工業化住宅に焦点を当て、それらの構成材をリユースするための技術、特に施工と分解・解体の容易性技術の相互関係を整理し、今後のリユースに求められる、ハード的な技術開発要件、さらにソフト面での技術運用方法のあり方を探る。	
2003 年度予算	106,000 円	

項　　目	自己評価
委員会活動状況 （開催日・参加人数）	2003/6/9、8/5、10/21、12/9、2004/1/16、3/11　計 6 回　平均 5 名程度

得られた成果	（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無） １．見学会の開催 東日本橋プロジェクト／東京大学野城研究室（2003年８月25日） 東雲キャナルコートＣＯＤＡＮ／都市公団（2003年7月8日） ……見学記録を作成し、関係者に配布。 ２．ディテールに関するミニ講演会の開催 第４回ディテールに関するミニ講演会（2003年８月５日） 内田祥士先生／東洋大学、習作舎 第５回ディテールに関するミニ講演会（2003年12月９日） 遠藤政樹氏／EDH 遠藤設計室主宰 ……講演録を作成し、関係者に配布。 ３．工業化構法住宅のリユース技術研究ＷＧ 工業化構法による賃貸中古アパートのリニューアル設計の試行と、賃貸住宅市場の動向を含む実現性について検討を行い報告書を作成した。 （内容：工業化構法による中古アパートリニューアルの必然性に関するオープンデータ及びプレファブ住宅メーカーデータの解説。リユース設計４案） ４．建築部品・構法の変遷ＷＧ活動 ①近代建築資料総合調査特別研究委員会（鈴木博之委員長）に参加する形で，材料・部品・構法に関する資料所在情報の収集活動を行ってきた。 ②故伊藤憲太郎氏（元日本建設材料協会理事長）所蔵建材資料の保存整理。材料サンプルのデータベース化。 ③2003年度に解体された同潤会アパート４地区（清砂，大塚，青山，江戸川）の部品を収集・保存。 ……引き続き、資料分類・記録作業を継続する。
目標の達成度	（当初の活動計画と得られた成果との関係） ・見学会の実施 実施回数は当初の計画より少ないものの、先進的な事例の見学会を行う事が出来た。 ・各部構法計画に関わる教育内容の実態把握 これについては、前年度までの構法教育ＷＧの活動で構法教育のあり方の検討を終了している。望ましい教材については未検討であるが、まもなく始まる「構造用教材」（日本建築学会）の改訂作業にこの成果が生かされると考える。 ・各部構法に関するシンポジウムの開催 外壁構法に限らず、ディテールに力を入れている設計者を講師として招き、「ディテールに関するミニ講演会」を２回開催した。 ・資源循環型住宅に必要な各部構法計画の内容の検討 リユースＷＧにおいて、実際の構法を対象としたリユース設計の試行を行った。 ・建築部品・構法の変遷に関わる資料及び人的ネットワークの構築 変遷ＷＧにおける変遷資料のデータベース化を行い、それを通じて人的ネットワークを築く事が出来た。 以上、当初の目標をほぼ達成する事が出来たと考えている。
その他評価すべき事項	